

令和4年度第2回経営協議会議事録

日時 令和4年7月20日(水) 14:30~16:05

場所 本部棟大会議室 (一部の委員はZoomでの出席)

出席者 空閑学長、松田理事・副学長、佐藤理事・副学長、船水理事・副学長、大川事務局長・副学長、藤木委員、吉田委員、青山委員、岩永委員、大日向委員、炭谷委員、中村委員、西尾委員

出席オブザーバー 高橋監事、増江監事、桃野副学長、董副学長

議事に先立ち、前回までに開催した経営協議会の議事録については異議がなかったため、議事録として承認された。

議題1 国立大学法人室蘭工業大会計規則及び会計実施規則の一部改正について

佐藤理事から、資料1に基づき国立大学法人室蘭工業大会計規則及び会計実施規則の一部改正について提案があり、審議の結果、原案のとおり了承され、役員会に附議することとされた。

資料1-1 国立大学法人室蘭工業大会計規則及び会計実施規則の一部改正について
資料1-2 国立大学法人室蘭工業大会計規則の一部を改正する規則(案)
資料1-3 国立大学法人室蘭工業大会計実施規則の一部を改正する規則(案)
資料1-4 「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」の改訂について
資料1-5 「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」の一部改訂について

議題2 国立大学法人ガバナンス・コード適合状況の更新について

大川事務局長から、資料2に基づき国立大学法人ガバナンス・コード適合状況の更新について提案があり、審議の結果、本案に対する経営協議会からの意見を令和4年8月5日まで受け付けることとし、意見を踏まえた報告書案を令和4年9月27日開催予定の役員会に附議することとされた。

資料2-1 国立大学法人ガバナンス・コード適合状況の更新について
資料2-2 令和3年度公表分、経営協議会及び監事からいただいたご意見に対する本学の対応状況についての取り組み状況(報告)
資料2-3 ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書(公表用)
資料2-4 ガバナンス・コード適合状況報告
資料2-5 国立大学法人ガバナンス・コードの改訂・公表及び国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等の報告について(報告)
資料2-6 国立大学法人ガバナンス・コード(令和4年4月1日改訂)
資料2-7 基本原則3_新旧対照表
資料2-8 国立大学法人ガバナンス・コード適合状況等の公表・報告スケジュール

議題3 国立大学法人室蘭工業大学デジタル・キャンパス推進室の設置について(追加)

学長から、資料6に基づき国立大学法人室蘭工業大学デジタル・キャンパス推進室の設置について提案があり、審議の結果、文言等の一部を修正することとし、役員会に附議することとされた。

(学外委員からの主な意見)

中村委員

- ・ 極めて重要な国家的な命題になっているので、こうした積極的な取り組みは大賛成である。北海道のリーダーとして頑張っていただきたい。また、非常に大事なテーマで、経営協議会としてもフォローしたい。ぜひ節目で推進室の活動計画が分かれば共有していただきたい。

青山委員

- ・ 「デジタルの力を活用した地域社会との共創」が、われわれ地元地域としても期待をするところである。もちろん学内での様々な推進体制についてもぜひ進めていただき、地域としては「デジタルの力を活用した地域社会との共創」に大いに期待している。

岩永委員

- ・大学のキャンパス内だけでなく、地域や企業との関係、ぜひデジタル・キャンパスを進めるにあたって、より大学の外とのつながりを多くすることを目指していただきたい。

資料6-1 国立大学法人室蘭工業大学デジタル・キャンパス推進室の設置について

資料6-2 国立大学法人室蘭工業大学デジタル・キャンパスの推進に関する規則（案）

報告1 第3期中期目標期間終了時における国立大学法人の積立金の処分に係る承認申請について
佐藤理事から、資料3に基づき第3期中期目標期間終了時における国立大学法人の積立金の処分に係る承認申請について報告があった。

資料3 第3期中期目標期間終了時における国立大学法人の積立金の処分に係る承認申請について

報告2 室蘭工業大学デジタル・キャンパス推進基本方針の策定について（追加）

学長から、資料7に基づき室蘭工業大学デジタル・キャンパス推進基本方針の策定について報告があった。

資料7 室蘭工業大学デジタル・キャンパス推進基本方針

報告3 大学の近況について

学長から、資料4に基づき大学の近況について報告があった。

資料4 大学の近況について

懇談1 令和4年度入学者の動向について

資料5に基づき令和4年度入学者の動向について懇談を行った。

（学外委員からの主な意見）

青山委員

- ・帯広でイベントを行うなど、これまでも道内の学校で理工学の体験授業を続けており、是非とも今後も地域に貢献する大学として、子どもたちの学力の向上にご協力いただき、大学に入学してくれるような取り組みもお願いしたい。

資料5 令和4年度入学者の動向について

以上